

第1節 近代への胎動

1

せまってくる外国船



- (1) 日本は17世紀前半から何政策をとっているか。
- (2) (1)をとっていたが、琉球王国とどこの国とは外交関係をもっていたか。
- (3) 長崎の出島で貿易を行っていた国はどこか。
- (4) 江戸時代に呼ばれていた現在の北海道。
- (5) 17世紀半ばにアイヌの人々は蜂起した。このときの中心人物は誰か。
- (6) 1825年にオランダの船を除く欧米の船を砲撃し、追い払うことを命じる何を出したか。

鎖国政策

朝鮮

オランダ

蝦夷地

シャクシャイン

異国船打払令

第1節 近代への胎動

2

ちからを蓄える庶民



- | | |
|---|--------|
| □ (1) 同業者の組合。 | 株仲間 |
| □ (2) 庶民の子弟の教育が行われた場所。 | 寺小屋 |
| □ (3) 18世紀はじめに石田梅山によっておこされた学問。 | 心学 |
| □ (4) 18世紀末に幕府が、幕臣の子弟の教育に力を入れるために設立されたもの。 | 昌平坂学問所 |
| □ (5) 諸藩で人材育成のためつくられたもの。 | 藩校 |

第1節 近代への胎動

3

近代思想のいぶき



- (1) 本居宣長が「古事記」などにい日本古来の精神をみだし、何として集大成したか。
- (2) 平田篤胤が、仏教や儒教を激しく非難し、天皇を尊ぶことを説いた。このこと何というか。
- (3) 尊王思想と外国を撃退するという思想。
- (4) オランダ語の学術や知識。
- (5) 杉田玄白や前野良沢らによって、翻訳された本。
- (6) 長崎に鳴滝塾を開いたドイツ人。
- (7) 大阪に適塾を開いた人物。
- (8) 全国の沿岸を測量させて「大日本沿海輿地全図」を作成した人物。
- (9) 身分制社会を否定し。全ての人々が農耕に従事する自然の世の実現を説いた人物。
- (10) 江戸中期に大坂の有力商人が出資してつくった学問所。

国学

復古神道

尊王攘夷論

蘭学

解体新書

シーボルト

緒方洪庵

伊能忠敬

安藤昌益

懐徳堂

第1節 近代への胎動

4

揺らぐ幕藩体制



- (1) 1833年頃より全国的に天候異常による凶作が続き、多数の餓死者と病死者を出したこと。
- (2) 1827年にかつての大坂町奉行の役人であった大塩平八郎が、幕府の政治を批判し、貧民の救済のために弟子や農民に呼びかけて、武装蜂起したこと。
- (3) 国内の心配ごとと、外国から攻撃を受ける心配があること。
- (4) 老中の水野忠邦が1841年に幕府の立て直しに着手したこと。
- (5) 江戸・大坂周辺を直轄地にしようとする命令。
- (6) 西日本のいくつかの有力な藩。
- (7) 紙や蠟などの産物を統制した藩。
- (8) 陶磁器などの専売を行なった藩。

天保の飢饉

大塩の乱

内憂外患

天保の改革

上知令

西南雄藩

長州藩

肥前藩